

# お薬のしおり

## 慢性閉塞性肺疾患について No.112 (H23.5)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんは慢性閉塞性肺疾患まんせいへいそくせいはいしっかんという病気を知っていますか？Chronic Obstructive Pulmonary Disease の頭文字をとって COPD (シーオーピーディー) とも呼ばれます。以前、肺気腫はいきしゅと呼ばれていた疾患と慢性気管支炎しっかん まんせいきかんしえんと呼ばれていた疾患しっかんは、どちらも喫煙が関係して、合併することが多いため慢性閉塞性肺疾患まんせいへいそくせいはいしっかん (COPD) という病名に変わりました。

原因の 90%以上は喫煙です。タバコの煙には、有害な化学物質が数多く含まれていますが、とくに人体に悪影響を及ぼすのは、ニコチン、タール、一酸化炭素です。タバコの煙に含まれるこれらの有害な物質が、気管支や肺を傷つけることにより炎症が起き、気管支が狭くなったり、肺胞の壁が破壊されたりします。そのため、肺に十分な量の空気が入りできなくなってしまいます。喫煙開始の年齢が若いほど、また 1 日の喫煙本数が多いほど COPD になりやすく、進行しやすいと言われています。その他、受動喫煙じゅうどうきつえんや大気汚染、職業上の粉塵ふんじん、化学物質も原因と考えられています。また、日本人ではまれですが、遺伝的要因もあります。

厚生労働省発表 (2006 年) の日本における死亡原因として COPD は 10 位となっています。日本には 500 万人以上の COPD 患者さんがいると推定されており、珍しくない病気だということが分かると思います。しかし、国民の COPD に対する理解は不十分であり、早期発見が困難となっているのが現状です。

COPD では、階段の上り下りなど体を動かしたときに息切れを感じたり、せきや痰たんが続いたりします。これらの症状は、ありふれた症状であるため、加齢や風邪によるものとして見過ごされてしまい、COPD 発見の遅れにつながります。



COPD が進行すると少し動いただけでも息切れし、日常生活に支障をきたします。さらに進行すると呼吸不全などを起こし、命にかかわるため、早期発見・早期治療が重要です。また、肺だけでなく全身にも影響をもたらして、全身性炎症、心・血管疾患、<sup>こつそしょうしょう</sup>骨粗鬆症、糖尿病などを併発しやすいことが知られています。特に40歳以上の方で、喫煙歴のある方は要注意です。症状のある方は、軽く考えず早めに呼吸器専門医を受診してください。

現時点で COPD を根本的に治し、もとの健康的な肺に戻す治療法はありませんが、少しでも早い段階で病気に気づき、適切な治療を開始することで健康状態の悪化と日常生活の障害を防ぐことができます。COPD の治療法としては、①禁煙、②薬物療法、③呼吸リハビリテーションなどがあります。さらに重症になれば、酸素療法や外科的療法が行われることもあります。

薬物療法の中心は<sup>きかんしかくちょうやく</sup>気管支拡張薬の吸入です。COPD では気管支が収縮し、呼吸が苦しくなります。このため、気管支を拡げて呼吸を楽にする目的で使用されます。吸入薬は、飲み薬と比べて少ない量で効果があらわれ、直接気管支に到達するために効果も早く現れます。また、全身の副作用も飲み薬より軽減できます。<sup>きかんしかくちょうやく</sup>気管支拡張薬には、毎日定期的に使用する長時間作用型のものと、息苦しいときに使用する短時間作用型のものがあり、症状によってはこれらを組み合わせます。吸入薬はその種類により、使い方が異なるため、正しい吸入方法を習得することが大切です。誤った使い方をしていて十分な治療効果が得られないので、使い方に不安のある方は薬剤師に相談してください。

その他、痰をとる薬、せきを止める薬、感染症を防ぐ<sup>こうせいぶっしつ</sup>抗生物質や、増悪を繰り返す場合には吸入ステロイド薬を使用することもあります。また、風邪やインフルエンザが原因で病気が悪くなることがあるので、風邪をひかないように気をつけたり、インフルエンザワクチンの予防接種を受けたりすることも大切です。

COPD の予防には禁煙が最も重要です。ひとりで禁煙するのが難しい場合は、禁煙外来のある病院を受診することもひとつの方法です。今から禁煙をはじめませんか？

